

環境活動レポート

2023年度版

(活動期間: 2023年9月1日～2024年8月31日)



(発行日: 2024年10月11日)

春原建設株式会社

目 次

1. 環境経営方針

2. 組織の概要

- 1) 事業所名及び代表者名
- 2) 所在地
- 3) 環境管理責任者及び担当者
- 4) 事業内容
- 5) 事業の規模

3. 実施体制(活動組織)

4. 環境経営目標とその実績

- 1) 中長期の環境経営目標設定書
- 2) 環境経営目標値に対する環境負荷の実績

5. 環境経営活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び

評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

7. 代表者による全体評価と見直しの結果

環境経営方針

【環境理念】

『私たちの全力をあなたの笑顔につなげます』

当社の経営方針の一つであり、事業活動及び製品・サービスにおいて環境の影響を考え、上田市の豊かな自然を保全し、次世代に残してゆくために必要な活動及び姿勢を明確にし、人の育成を通じ未来に向け実行します。

【環境経営方針】

1. 業務効率化からのエコ(自然資本を守る)を通じて経営を強化します。
2. 環境関連の法令、条例及びその他の要求事項を遵守します。
3. 省エネルギーに務め、二酸化炭素排出量の削減に取り組めます。
 - (1) 電力使用量の削減。
 - (2) 車両用燃料使用量の削減。
 - (3) 冷暖房用ガスの使用量の削減。
4. 廃棄物の減量化・適正処理に取り組めます。
 - (1) 廃棄物の分別徹底と排出量の削減。
 - (2) 建設資材の再利用・再使用化。
5. 節水に努め水使用量の削減に努めます。
6. グリーン購入に取り組めます。
7. 環境に配慮した提案、設計施工(ICT活用)に取り組めます。

以上、環境経営目標を設定し従業員に周知徹底させ、定期的に見直しを行い、継続的な改善が自然資本を守る⇒経営強化につながる事を実証していきます。

制定日： 2013年3月10日

改定日： 2022年10月8日

春原建設株式会社

代表取締役 春原文浩

2. 事業内容

1) 事業所名及び代表者名

春原建設株式会社

代表取締役 春原 文浩

2) 所在地

本 社	長野県上田市住吉1-7
介護職員養成校 (マスターカレッジ住吉校)	本社 2階
建設資材置場1	長野県上田市住吉2548-2、2549
建設資材置場2	長野県上田市古里1917-2、1917-3
建設資材置場3	長野県上田市住吉648-3、648-1、647-1

3) 環境管理責任者及び担当者

環境経営管理責任者:	代表取締役 春原 文浩
EA21環境事務局担当者:	取締役 春原 真由実
各部門担当者:	建設事業部: 古畑 勝成 人材育成事業部: 浜村あゆみ
連絡先:	TEL 0268-22-7018 FAX 0268-27-4094 mail: and-do-sunohara@ap.wakwak.com mail: manyon2501@hotmail.com

4) 事業内容

建設事業部 : 建設工事業、土木・舗装工事業、水道・管工事業、造園工事業
人材育成事業部 : 人材育成事業 (介護職員養成校)

5) 事業の規模

売上高 :	53125万円 (第53期 2023年9月1日～2024年8月31日)
本社床面積 :	749.51㎡
従業員数 :	11 名
人材育成事業部 非常勤講師 :	6 名
人材育成事業部 年間講座数及び生徒数 :	5講座 , 50名程度

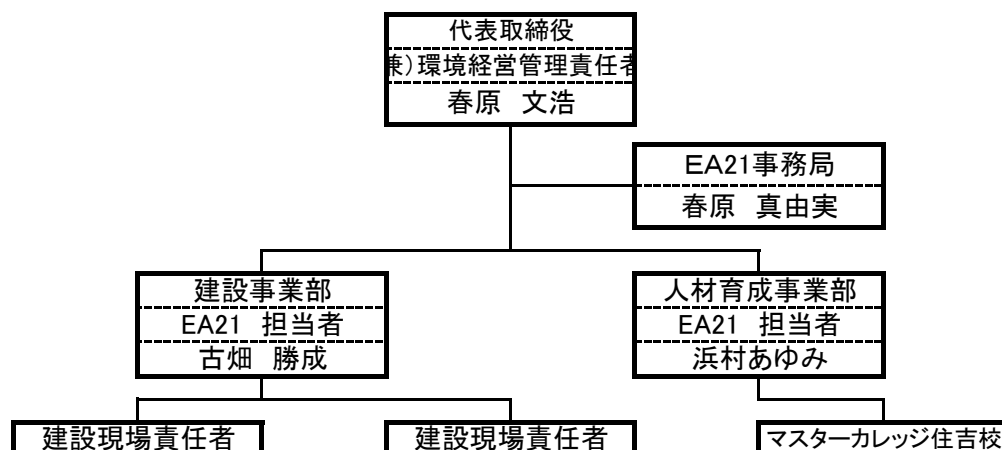
6) 対象範囲

全組織・全活動

3. 実施体制

EA21環境経営システムを構築・運用し、環境への取組を実施するために実施体制、責任と権限を定め、全従業員に周知する。

1. 当社のEA21を運用するための組織を次の通りとする。



2. 責任及び権限

1) 代表者
① EA21に関する全ての責任と運用についての権限を持つ。 ② EA21の実施及び管理に必要な資源を用意する。資源には、人的資源、設備、費用、時間、専門的な技能、技術を含む。 ③ 環境経営管理責任者を任命する。 ④ 環境方針の設定・見直し及び従業員へ伝達を行なう。 ⑤ 代表者による全体の評価と見直しを実施する。
2) 環境経営管理責任者
① EA21を構築し、実施し、管理する。 ② 環境への負荷及び取組の自己チェックを確認し、承認する。 ③ 法規制等の取りまとめを行い、遵守状況をチェックする。 ④ 環境経営目標を設定し、環境活動計画を確認し承認する。 ⑤ 環境経営活動の取組状況を確認し、環境目標の達成状況を評価する。 ⑥ 問題点の是正・予防処置に対する指示と改善や見直しに必要な処置を行う。 ⑦ 環境経営活動の取組結果を代表者へ報告する。
3) 各部門担当者
① 自部門におけるEA21の実施。 ② 自部門における環境方針の周知。 ③ 自部門の従業員に対する教育訓練の実施。 ④ 自部門に関連する環境目標及び環境経営活動計画の実施及び達成状況の報告。 ⑤ 特定された項目の手順書作成及び運用管理。 ⑥ 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練・記録。 ⑦ 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。
4) 建設現場責任者
① 工事現場におけるEA21の実施 ② 工事現場に関連する環境目標及び環境経営活動計画の実施及び達成状況の報告。 ③ 工事現場における環境負荷低減活動の実施及び緊急事態対応
5) EA21事務局
① 環境経営管理責任者の事務局。 ② 環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェック原案の作成。 ③ 「環境関連法規等の取りまとめ／遵守チェック表」原案の作成。 ④ 環境経営目標原案の作成。 ⑤ 環境経営活動計画原案作成。 ⑥ 環境経営活動実績集計。 ⑦ 環境関連の外部コミュニケーションの窓口。

4. 環境経営目標とその実績

1) 中長期の環境経営目標設定書

作成日: 2022/10/8

更新日: 2023/9/20

環境方針	環境目標項目	責任部門 責任者	基準値 (基準年度)		年度毎目標・達成手段				
					2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
二酸化炭素排出量削減	電力の削減	人材育成 事業部	2020 年 電力 売上 46.79% 14,225 kWh 30,400 万(売上)	目標	99.9% (基準値の0.1%削減) 46.69%	99.8% (基準値の0.2%削減) 46.59%	99.7% (基準値の0.3%削減) 45.59%	99.6% (基準値の0.4%削減) 44.59%	99.5% (基準値の0.5%削減) 43.59%
				達成 手段	【各部作業効率の見直し】 ・不要な照明の消灯 ・OA機器の電源OFF ・冷暖房の運用管理の徹底	【各部作業効率の見直し】 ・不要な照明の消灯 ・OA機器の電源OFF ・冷暖房の運用管理の徹底	【各部作業効率の見直し】 ・不要な照明の消灯 ・OA機器の電源OFF ・冷暖房の運用管理の徹底	【各部作業効率の見直し】 ・不要な照明の消灯 ・OA機器の電源OFF ・冷暖房の運用管理の徹底	【各部作業効率の見直し】 ・不要な照明の消灯 ・OA機器の電源OFF ・冷暖房の運用管理の徹底
	化石燃料の削減 *軽油	建設事業部	2020 年 軽油 売上 223.31% 67,885 l 30,400 万(売上)	目標	99% (基準値の1%削減) 222.31%	98% (基準値の2%削減) 221.31%	97% (基準値の3%削減) 220.31%	96% (基準値の4%削減) 219.31%	95% (基準値の5%削減) 218.31%
				達成 手段	【作業効率の見直し】 ・アイドリングストップ ・急発進、急加速の抑制 ・冷暖房の控えめ使用	【作業効率の見直し】 ・アイドリングストップ ・急発進、急加速の抑制 ・冷暖房の控えめ使用	【作業効率の見直し】 ・アイドリングストップ ・急発進、急加速の抑制 ・冷暖房の控えめ使用	【作業効率の見直し】 ・アイドリングストップ ・急発進、急加速の抑制 ・冷暖房の控えめ使用	【作業効率の見直し】 ・アイドリングストップ ・急発進、急加速の抑制 ・冷暖房の控えめ使用
	化石燃料の削減 *ガソリン	人材育成 事業部	2020 年 ガソリン 売上 21.46% 6,541 l 30,400 万(売上)	目標	99.9% (基準値の0.1%削減) 21.36%	99.8% (基準値の0.2%削減) 21.26%	99.7% (基準値の0.3%削減) 21.16%	99.6% (基準値の0.4%削減) 21.06%	99.5% (基準値の0.5%削減) 20.96%
				達成 手段	【使用期間の短縮】 ・アイドリングストップ ・急加速の抑制 ・冷暖房の控えめ使用	【使用期間の短縮】 ・アイドリングストップ ・急加速の抑制 ・冷暖房の控えめ使用	【使用期間の短縮】 ・アイドリングストップ ・急加速の抑制 ・冷暖房の控えめ使用	【使用期間の短縮】 ・アイドリングストップ ・急加速の抑制 ・冷暖房の控えめ使用	【使用期間の短縮】 ・アイドリングストップ ・急加速の抑制 ・冷暖房の控えめ使用
	化石燃料の削減 *灯油	建設事業部	2020 年 灯油 売上 1.96% 596 l 30,400 万(売上)	目標	99.99% (基準値の0.01%削減) 1.95%	99.98% (基準値の0.02%削減) 1.94%	99.97% (基準値の0.03%削減) 1.93%	99.96% (基準値の0.04%削減) 1.92%	99.95% (基準値の0.05%削減) 1.91%
				達成 手段	・暖房の適正化	・暖房の適正化	・暖房の適正化	・暖房の適正化	・暖房の適正化
	都市ガスの削減	人材育成 事業部	2020 年 都市ガス 売上 5.33% 1,621 m3 30,400 万(売上)	目標	99.9% (基準値の0.1%削減) 5.32%	99.8% (基準値の0.2%削減) 5.31%	99.7% (基準値の0.3%削減) 5.30%	99.6% (基準値の0.4%削減) 5.29%	99.5% (基準値の0.5%削減) 5.28%
				達成 手段	・給湯器の適温使用	・給湯器の適温使用	・給湯器の適温使用	・給湯器の適温使用	・給湯器の適温使用
	二酸化炭素の削減	建設事業部	2020 年 Co2 売上 664.39% 201,975.6 kg-Co2 30,400 万(売上)	目標	99% (基準値の1%削減) 663.39%	98% (基準値の2%削減) 662.39%	97% (基準値の3%削減) 661.39%	96% (基準値の4%削減) 660.39%	95% (基準値の5%削減) 659.39%
				達成 手段	・各目標達成状況の確認と 改善	・各目標達成状況の確認と 改善	・各目標達成状況の確認と 改善	・各目標達成状況の確認と 改善	・各目標達成状況の確認と 改善
				目標	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持

環境方針	環境目標項目	責任部門 責任者	基準値 (基準年度)		年度毎目標・達成手段				
					2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
廃棄物排出量 削減	一般廃棄物の削減	人材育成 事業部	2020 年 44.45 kg	達成 手段	・裏紙利用 ・資料のデータ化と共有	・裏紙利用 ・資料のデータ化と共有	・裏紙利用 ・資料のデータ化と共有	・裏紙利用 ・資料のデータ化と共有	・裏紙利用 ・資料のデータ化と共有
廃棄物排出量 削減	産業廃棄物減量化・適正処理実践 協定書の実践	建設事業部	増減は工事発注者に ゆだねられるためなし	目標	減量化は考慮せずリサイクル管理の徹底	減量化は考慮せずリサイクル管理の徹底	減量化は考慮せずリサイクル管理の徹底	減量化は考慮せずリサイクル管理の徹底	減量化は考慮せずリサイクル管理の徹底
				達成 手段	廃棄物の分別と再利用 の徹底とその把握	廃棄物の分別と再利用 の徹底とその把握	廃棄物の分別と再利用 の徹底とその把握	廃棄物の分別と再利用 の徹底とその把握	廃棄物の分別と再利用 の徹底とその把握
グリーン購入	事務用品のグリーン購入拡大 (エコマーク購入／全購入金額)	事務局	できる限りとして 100.0 %	目標	グリーン購入	グリーン購入	グリーン購入	グリーン購入	グリーン購入
				達成 手段	・グリーン購入の拡大	・グリーン購入の拡大	・グリーン購入の拡大	・グリーン購入の拡大	・グリーン購入の拡大
排水量削減	節水	人材育成 事業部	2020 年 0.276% 水道水 売上 84 m3 30,400 万(売上)	目標	99.99% (基準値の0.01%削減) 0.275%	99.98% (基準値の0.0%削減) 0.274%	99.97% (基準値の0.0%削減) 0.273%	99.96% (基準値の0.0%削減) 0.272%	99.95% (基準値の0.0%削減) 0.271%
				達成 手段	・水道水の節約 ・水を出しっぱなしにしない	・水道水の節約 ・水を出しっぱなしにしない	・水道水の節約 ・水を出しっぱなしにしない	・水道水の節約 ・水を出しっぱなしにしない	・水道水の節約 ・水を出しっぱなしにしない
地域活動	会社周辺の清掃 しなの木道路クリーン活動への参加	事務局		目標	クリーン作戦	クリーン作戦	クリーン作戦	クリーン作戦	クリーン作戦
				達成 手段	・年度始に会社周辺の しなの木道路クリーン活動	・夏に会社周辺の しなの木道路クリーン活動	・夏に会社周辺の しなの木道路クリーン活動	・夏に会社周辺の しなの木道路クリーン活動	・夏に会社周辺の しなの木道路クリーン活動
環境に配慮した提案・設計 施工	総合評価型発注の受注率 アップ 自らが施工・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善からの総合評価型発注の受注率アップ	建設事業部		目標	優良工事 取得	優良工事 取得	優良工事 取得	優良工事 取得	優良工事 取得
				達成 手段	教育と実践	教育と実践	教育と実践	教育と実践	教育と実践
環境に配慮した提案・設計 施工	仕事の効率化	建設事業部		目標	RPA積極的活用	RPA積極的活用	RPA積極的活用	RPA積極的活用	RPA積極的活用
	働き方改革、RPA積極活用			達成 手段	試行錯誤から書類作成のスピードアップ	試行錯誤から書類作成のスピードアップ	試行錯誤から書類作成のスピードアップ	試行錯誤から書類作成のスピードアップ	試行錯誤から書類作成のスピードアップ
環境に配慮した提案・設計 施工	環境配慮資材の購入・提案	建設事業部		目標	ICT教育	ICT活用工事を増やす	ICT活用工事を増やす	ICT活用工事を増やす	ICT活用工事を増やす
	機械工事の(環境に配慮・コスト縮減)をICTにより積極提案して実施する。			達成 手段	環境配慮資材の対象品使用の拡大。ICTの教育 環境等を配慮した提案	ICTを30%の社員が使用できるよう教育 環境等を配慮した提案	ICTを50%の社員が使用できるよう教育 環境等を配慮した提案	ICTを70%の社員が使用できるよう教育 環境等を配慮した提案	ICTを90%の社員が使用できるよう教育 環境等を配慮した提案

4. 環境経営目標とその実績

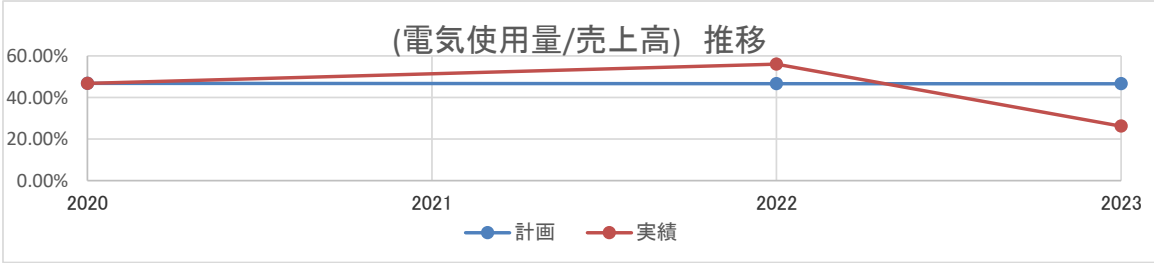
2) 環境経営目標値に対する環境負荷の実績

環境経営目標値

環境目標項目	単位	2020年度 (基準年)	実績値	2022年度	目標値	2023年度	目標値
		使用・排出 実数量	/売上高 30400万	目標削減率	/売上高	目標削減率	/売上高
電力	kWh	14,225.0	46.79%	-0.10%	46.69%	-0.10%	46.59%
軽油	L	67,885.0	223.31%	-1.00%	222.31%	-1.00%	221.31%
ガソリン	L	6,524.1	21.46%	-0.10%	21.36%	-0.10%	21.26%
灯油	L	596.0	1.96%	-0.01%	1.95%	-0.01%	1.94%
都市ガス	m3	1,621.0	5.33%	-0.01%	5.32%	-0.01%	5.31%
CO2[排出係数0.486kg- CO2/kWh](中部電力㈱2015年度 数値採用)	kg-CO2	201,975.6	664.39%	-1.00%	663.39%	-1.00%	662.39%
産業廃棄物	t	507.2		受注工種による変動が著しいためリサイクル状況の把握のみとする			
水道水	m3	84.0	0.276%	-0.001%	0.275%	-0.001%	0.274%
		グリーン購入比率		グリーン購入比率		グリーン購入比率	
事務用品	%	100		100	できる限り	100	できる限り
		リサイクル率		リサイクル率		リサイクル率	
一般廃棄物 (リサイクル率)	%	50		50	できる限り	50	できる限り
総合評価型発注の受注率アップ		県の工事点数86点以上を一件以上目指す					
RPA導入による仕事の効率化		オートメーション化の仕組み作り					
環境に配慮した提案と設計		ICTの内製化					

環境負荷の実績

環境目標項目	単位	2023年度					
		目標値 /売上高		実績			評価
				実績	売上高	/売上高	
電力	kWh	46.59%		13913.0	53125 万円	26.19%	○
軽油	L	221.31%		12230.7		23.02%	○
ガソリン	L	21.26%		7278.5		13.70%	○
灯油	L	1.94%		491.8		0.93%	○
都市ガス	kg	5.31%		1216.0		2.29%	○
CO2[排出係数0.486kg-CO2/kWh](中部電力㈱2015年度数値採用)	kg-CO2	662.39%		59054.3		111.16%	○
産業廃棄物	t			112459.0		—	—
水道水	m3	0.274%		98.5		0.185%	○
事務用品	%	100		82.5		—	△
一般廃棄物（リサイクル率）	%	50		21.0		—	×
総合評価型発注の受注率アップ		県より受注の工事のうち1件目標達成					
RPA・ICT導入による仕事の効率化		ICTによる効果が実証され、内製化する第一段階として、“皆で使ってみよう”作戦					
環境に配慮した提案と設計		長野県の受注工事全てにICTを導入した。					



5. 環境経営活動の取組計画と評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組計画	評価	達成状況と今後の方針
【電力の削減】 ・昼休み、不在時の消灯 ・夜間・休日はパソコン等のOA機器の電源OFF ・冷暖房の適正化(冷房28℃、暖房20℃)	◎ ◎ △	売上増による効果あり。 震災後の節電対策やエコアクション(継続中) EA21の取組みにより、意識向上があり(継続中) 気候変動により、将来的に検討課題となる(28度は厳しい)
【ガソリン、軽油の削減(現場)】 ・アイドリングストップ ・急発進、急加速、空ぶかしの防止 ・冷暖房の控えめ使用 ・建設機械等の作業停止時のエンジンストップ ・相乗り乗車の推進 ・休祝日の社有車の使用禁止	△ ○ △ ○ ○ ◎	売上増による効果あり。 あまり効果なし 実際効果が認められないとの認識 聞き取り調査より 聞き取り調査より(熱中症対策のための冷房増) 現場で常識化を図るように教育・現場責任者がチェックした。 現場が多くなり、物理的に無理があるようであった。 守られている
【ガソリンの削減(事務所)】 ・アイドリングストップ ・急発進、急加速の防止 ・冷暖房の控えめ使用 ・休祝日の社有車の使用禁止	△ ○ △ ◎	売上増による効果あり。 あまり効果なし 実際効果が認められないとの認識 聞き取り調査より 聞き取り調査より(熱中症対策のための冷房増) 守られている
【灯油の削減】 ・暖房の適正化(暖房20℃)	◎	売上増による効果あり。 暖房の適正化が徹底されているため、この状態を維持したい。
【都市ガスの削減】 ・都市ガスの節約 ・給湯器の適温使用	◎ ◎	売上増による効果あり。 節約の意識向上があった。 事務所のみの使用であり、目的外使用は認められず。
【一般廃棄物の削減】 ・現状把握による削減 ・裏紙利用、両面印刷、集約印刷の徹底 ・社内LAN利用による会議資料のペーパーレス化	○ ◎ ◎	平衡状態 徹底している 書類 PDF化の促進により減
【産業廃棄物の削減】 ・廃棄物の分別と再利用の徹底	◎	工事内容により削減はできる工事とできない工事がある。 リサイクルのための管理と把握を確実にやってる。
【事務用品のグリーン購入】 ・グリーン購入対象品目調査 ・グリーン購入比率調査	◎	再生紙購入を実施 グリーン商品の購入に努める。できる限り
【水道水の削減】 ・水道水の節水 ・水を出しっぱなしにしない	◎ ◎	きわめて良好。 守られている
【会社周辺の清掃】 ・夏に会社周辺のクリーン作戦実施	○	積極的に地域活動をする。現場でも実施した。
自らが施工・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善からの総合評価型発注の受注率アップ	△	1件で目標達成、RPA導入により体制が構築されつつある。
【RPA導入による仕事の効率化】 エコを導き出し。残業時間の短縮	○	新入社員に教育、又、社員が自ら考えて構築していく事を教育 データベース構築を検討
【環境に配慮した提案と設計】 ・工事において、コスト縮減＝エコを考慮した提案	△	ICT施工からエコを導き出す。かなり実証されてきた 内製化を図るため”皆で使ってみよう”作戦実施。

6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1) 当社の事業活動に伴い適用される環境関連法規等は下記の通りです。

法規制等の名称	当社に適用される要求事項	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の保管、運搬・処分の委託 マニフェストの交付、保管、報告 多量排出事業者(廃棄物500t/年)の場合 産業廃棄物処理計画の提出	遵 守 ○
建設リサイクル法	対象工事の届出、再資源化等の実施、報告	遵 守 ○
排出ガス対策型建設機械の普及促進に関する規定	対策型建設機械の使用 基本 排ガス対策3次以上	遵 守 ○ (適応機械の購入)
低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定	適応建設機械の使用	遵 守 ○
騒音規制法	対象特定作業の届出	期間中該当なし
振動規制法	対象特定作業の届出	期間中該当なし
消防法	第4類危険物の指定数量	遵 守 ○

2) 環境関連法規等の遵守状況についてチェックを行い、現在及び過去3年間問題のないことを確認致しました。

また、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

7. 代表者による全体評価と見直し

EA21システムを運用して11年余りが経過し、社員の積極的な取り組みのおかげで、エネルギー消費の絶対値数量が10年通して下がり傾向にありましたが、数字に関しては頭打ちであり、前年度からは、売上高に対する消費量の比較に変更しました。

経過観察から、今後問題点として表面にでてきそうな事として、受注工事の工種によるエネルギー消費率の大幅な差からくる分析の偏りが考えられます。よって、今後、受注工事の工種別を検討しなくてはならないかもしれません。

気候変動によるエネルギーの消費率は今後うなぎのぼりに上がる可能性があることから、従来の手法では、エネルギー消費率の減少は望めないことが考えられます。

新技術やDXで効率化を図るとともに、新たな設備投資を考えざる負えません。

世の中の状況を見つつ、課題に対して対策を検討し、環境と経営を結び付けて環境社会づくりに貢献したいと思います。取り急ぎの課題として、新技術とDXの内製化、これに重点を置きたい。

2024年10月11日

春原建設株式会社

代表取締役 春原 文浩